

倭姫命と真名鶴

— 根倉 —

千何百年も昔のことです。

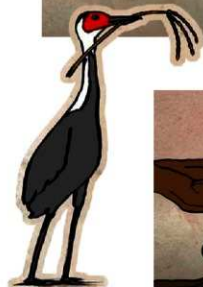
皇女倭姫命が皇太神宮をいただいて、飯野高宮（から磯の宮へ向
われる時、船で佐々夫江へお着きになりました。その時、北の方か
ら一羽の真名鶴が飛んできたのです。

美しい鶴の姿に、倭姫命はしばし見とれていました。

やがて、夜になっても鳴きつづける鶴に、倭姫命は不思議に思われ、
鶴の行方をさがしてくるようにと使いの者を出しました。

あちこち鶴の鳴き声をたよりにさがしまわり、佐々夫江の葦原にさ
しかかると、大きな松の木がありました。

その松の下に八握穂（一株で八百の穂をつける稲）が生えていて、
鶴は八握穂の稲の一本を口ににくわえて鳴き止んだのです。





使いの者は驚いて、そのことを話すと、倭姫命は、
「あの鶴は神の使いだったのですね。」
と大へん喜ばれたのでした。

そして、その頃このあたりを支配していた豪族、竹連吉比古らに稲を刈り取らせ、その米で神酒を造って御神前におそなえたのでした。
これが神嘗祭の初めだといわれています。

倭姫命は、鶴がいたという草原に八握穂神社を造り、祀ったということです。

そ のお陰で、今でもこのあたりはおいしいお米がたくさん穫れるのだそうです。

根倉は、昔、稲倉と呼ばれていました。

飯野高宮は松阪市の神山神社、磯の宮は伊勢市の磯神社が推定地となっています。



山大淀の田んぼの中に建てられた八握穂神社の石碑

キーワード：みんわ、根倉、カケチカラ発祥の地、日本遺産

このお話は、昭和56年に発行された書籍『明和のみんな』（野田那智子さん編著）をもとにし、登場する人物・建物・その他の名称・読み方などは、原文をしょうしています。